



南三陸町自然環境活用センター
春の特別講座

参加
無料！



アイゴの活用について

◆ 2025.3.15 [Sat.] 15:30~17:30 (15:00開場) ◆

「伊勢志摩の海からのメッセージ～」

- 会場：南三陸町生涯学習センター
大研修室
- 連絡先：0226-25-9703
(南三陸町自然環境活用センター)



講 師



ざっこCLUB 代表
さとう たつや
佐藤 達也 氏

南三陸の海では、海藻藻場が減少する”磯焼け”の進行や、アイゴなど暖かな海の魚が増えるなど、海の環境が大きく変化しつつあります。今回、三重県は伊勢の海で地域の海や漁業と長年向き合ってきた佐藤氏に、特にアイゴの利活用や漁業との関わりについてお話をいただきます。大変貴重な機会ですので、みなさま、ぜひご参加ください。



南三陸町自然環境活用センター

春の特別講座

～アイゴの活用について～

ざっこCLUB 代表
さとう たつや
佐藤 達也

＜プロフィール＞

1984年生まれ。鳥羽市海の博物館勤務を経て、ざっこCLUBを設立し、日本でただ1人（おそらく？）のフリーランス学芸員として2010年から独立。海洋教育、学会運営委員や、第4期海洋基本計画策定に向けた政策提言の委員なども担当させていただきながら、鳥羽の生きもののモニタリングを始めて10年目の節目に「鳥羽市海のレッドデータブック2023」の企画、執筆、取りまとめ等を担当した。水中カメラマンにして漁師で獵師でもある。そして、気まぐれに霞ヶ関で期間限定での官僚生活も満喫？している真っ最中。

＜講演内容＞

もともとは神宮宮域内を流れる五十鈴川に生息する淡水魚類と、その生息環境のモデル解析が専門でしたが、博物館に勤め始めた2010年から藻場調査に携わる機会が増えました。思い起こせば1990年（当時中学生）ころに、海釣りに出掛けた磯や港から海藻類が消えていく様子を見ていた記憶を今になって呼び起こすことが多いです。長崎県対馬でも、藻場が消えていく様子をモニタリングしていましたが、三重県鳥羽市は東海・中部地方では唯一、最後に藻場と呼べる藻場が広がっている海域で、昔懐かしい水中の景観が今でも広がっている癒しの海域であります。

さて、そんな伊勢志摩の海域における約10年間のモニタリングを経て、その成果を「鳥羽市海のレッドデータブック2023」としてまとめましたが、全国版や県に先駆けて掲載した種の中に、海藻類も含まれています。また、JAMSTECが管理するBISMaLやORBISというデータベースへも登録させていただきました。それらの紹介とともに、漁師生活のなかで、実はアイゴだって苦労してやっとの思いで生きているんじゃなかろうかと思われる様子や、藻場との関係、なんだかんだ美味しく食べてしまう調理方法などについて、気になっていることをご紹介させていただければと思います。

一緒に海のこと、藻場のこと考えてみる機会となれば幸いです。